

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX049-272-7092 ホームページ <https://hatoyama.info/>

5月・6月の活動予定

■泉井交流体験館とコラボで「アンズジャムづくり」

**アンズジャム作り
アンズ畑見学
体験**
6.16日 9:30-13:00

収穫したての美味しさいっぱいフレッシュなあんずを使ってジャムを作ります。出来上がったジャムは瓶詰めしてお持ち帰りいただけます。他に、アンズ畑の見学や、出来立てのアンズジャムをパンやヨーグルト、紅茶と一緒に味わう朝食のお料理もご用意しております。

会場 鳩山町泉井交流体験エリア 加工体験室
埼玉県比企郡鳩山町泉井524-1

定員 20名 **参加費** 一人2,500円 **対象** 小学生高学年以上

申し込み
お問い合わせ先
NPO法人はとやま環境フォーラム
☎049-227-3001/090-2457-8513(愛称)
kawasemi3001@gmail.com

【会場アクセス】
・電車・バスをご利用の方
大宮駅より「西武東上線」乗車、西武バス「鳩山町泉井」バス停より徒歩10分（徒歩・下車すぐ）
・車をご利用の方
475号線（鳩山町）バス停「泉井」から徒歩10分（徒歩）

NPO法人はとやま環境フォーラム 熊井の森トラスト基金
【開催】 鳩山町泉井交流体験エリア 加工体験室

■第18回「エコフェスタ比企in鳩山」を開催



5月25日（土）午前10時～午後3時、かわせみハウス前の緑道で第18回エコフェスタ比企in鳩山」を開催します。恒例の「住民自治会バザー」や古本、手作り小物、苗木、地元の有機野菜販売のほか、ゲームなどのアトラクションも企画しています。この運営に皆様のご協力をお願いいたします。お手伝いいただける方は午前8時半集合です。

■熊井の森のんびり定例観察会がスタート

5月14日（火）午後1時30分、かわせみハウス前に集合。これから毎月第2火曜日に開催する定例観察会の初回です。がっちりした観察会ではありません。集まってきた人たちと一緒に車に相乗りして、熊井の森へ。自分の興味でぶらぶら歩きながら、草花や、昆虫たちに触れて自然を楽しもうという、言うならば、ひとりで山に入るのちょっと不安と躊躇していた人に、熊井の森を堪能する機会を定期的に設けようという訳です。3時過ぎにはNTに戻ってきます。お知り合いの方をぜひお誘いし、皆さんどうぞ。

6月16日（日）に鳩山町泉井にある交流体験エリア加工体験室で、「アンズジャムづくり&アンズ畑見学体験」イベントを開催します。この企画は、鳩山町の公共施設である同館の指定管理者との共同企画ということで、施設利用料はかかりません。鳩山町のアンズの素晴らしさをより多くの人に知ってもらおうと、女性スタッフが調理場の現地確認をしたり、あちこちお店を回って買ってきたパンの試食をして、ジャムを付けるのに一番いいパンはどれかの食べ比べをするなど、何度も打ち合わせを重ねて、準備をしています。

鳩山町の広報「はとやま」にもイベント情報が出ますが、コラボ企画の成功に向けて頑張りましょう。

5月・6月 活動スケジュール

- 5月 5日（日）午前8時半～ 資源回収
- 14日（火）午前9時半～ 5月定例理事会&例会
午後1時半～ 定例観察会
- 21日（火）午前10時～ **フォーラム総会**
- 25日（土）午前10時～ エコフェスタ比企
- 30日（木）「熊井の森通信」30号発行
- 6月 2日（日）午前8時半～ 資源回収
- 11日（火）午前9時～ 6月定例理事会&例会
午後1時半～ 定例観察会
- 16日（日）午前9時半～ アンズジャムづくり
- 22日（土）午後7時半～ ホテル観察会
- 30日（日）午前10時～ 第2回写真学校

4月の活動報告

■第1回はとやま環境フォーラム写真学校開催



はとやま環境フォーラム写真学校《第8期受講者募集》

知る楽しみ、撮る楽しみ

いつも周りにある景色、レンズを通してみると世界がぐんと広がっていきます。ネイチャーガイドでもあるプロカメラマンがネイチャーフォトについて教えてくれます。季節ごとの生き物のお話も聞きながら、すぐそばにある自然を深く知り、撮り楽しみましょう。

04月21日(日)
06月30日(日)
08月25日(日)
10月27日(日)
01月26日(日)

写真学校会場
鳩山町泉井交流体験エリア交流体験館
鳩山町泉井4-1-1
毎日 午前9時～午後1時 全3回 雨天決行

三森典彰 (Sanzen Noriaki)
ネイチャーフォトプロフェッサー
(株)HoneyBee代表取締役
HoneyBee代表
鳥取県立鳥取大学環境学専攻准教授

申し込みお問い合わせ
写真学校事務局
080-5054-3022 (上野)
主催 鳩山町はとやま環境フォーラム
協賛 泉井交流体験エリア協議会
鳥取県立鳥取大学環境学専攻准教授

中学生以下は大人を1名以上お連れください。

写真展など開催します。

昨年同様、世話人が運営する方式で4月21日(日)、今年度の初回写真学校を開催しました。



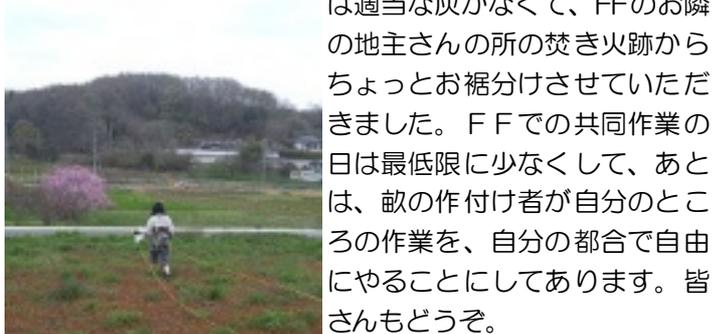
この企画も、「アンズジャムづくり」と同様に、泉井交流体験エリア指定管理者とのコラボ企画ということで、使用料が免除されることとなったため、座学会場を泉井交流体験エリアで開催します。今年度の写真学校は名称を「熊井の森写真学校」から「はとやま環境フォーラム写真学校」と改めました。

今回の撮影場所は鳩山町農村公園で、春の草花を中心に撮影。午後の座学では、会場の大型スクリーンと並行してZOOMを使用しました。今後、午後の座学に出席できない方も、自宅で受講ができるような仕組みを検討していく計画です。(瓜生 康三郎)

■フォーラム農園で男爵イモの作付け



去年まではと麦を耕作していた畑を『フォーラム農園』(Forum Farm 略して『FF』)と名付けました。4月13日、畝と通路を分かりやすいように、3人でロープ張り作業。ありがたいことに、最近、近所の方から声を掛けてもらうことが多くなり、作業中に近所の方から、男爵イモの種イモをたくさん頂き、急ぎよ、ジャガイモ定植作業を開始。ジャガイモを2つに割り、切り口に灰をまぶして腐らないようにしてから埋めるのですが、ピザ窯の所には



適当な灰がなくて、FFのお隣の地主さんの所の焚き火跡からちょっとお裾分けさせていただきました。FFでの共同作業の日は最低限に少なくして、あとは、畝の作付け者が自分のところの作業を、自分の都合で自由にやることにしてあります。皆さんもどうぞ。

■はと麦畑の横に一面のひまわり畑が出現か？

上熊井農産物直売所(ちよっくま)の入り口前の熊井の森の裾にあるもう一つの「フォーラム農園」には、はと麦を植えますが、その左側の畑もお借りしています。で、女性会員Oさんが「空けておくのはもったいない。私一人でもできそうだから」と、一面にひまわりの種を撒くことになりました。押しかけ助っ人求めます。

■フォーラム会員3人が食品衛生責任者講習修了

4月10日、『食品衛生責任者』の資格を取得しました。10時から17時までのハードな講習会でしたが、改めて、菌やウィルスを学び、やはり怖いものだなあと思い、生活にも役立つ知識だと感じました。今後のイベントや手作りお菓子の販売等にも役立つ資格です。今回、会員3人で一緒に取得できたのもうれしいことでした。(大平 孝子)



■協生農法を実践する「かすかべ農園」を視察

鳩山町にはたくさんの休耕地があります。

食料自給率の低い日本なのにもったいないなあ、と思っていました。そんな時（昨年12月）、テレビで協生農法の特集があり、「これならできると」思いました。

協生農法のポイントは、1：無耕起、2：無施肥、3：無農薬、4：種と苗以外一切持ち込まない、ということ。しかも、特段の必要（日照りなど）が無ければ水さえも与えないのです。

ずいぶん乱暴な栽培方法のように思えますが、ソニーの子会社（ソニーCSL研究所）が開発し、本気で取り組んでいる方法で、実際にこの農法で事業をしている方がいます。4月11日、環境フォーラムの仲間など関心のある方4人で、それを実践している埼玉県春日部市の「かすかべ農園」（写真）さんを見学してきました。ご覧の通り、見た目きれいな農園ではありません。4月なので作物も収穫期では



なく雑草がたくさん生えています。それはこの時期普通の畑でも同じです。

協生農法は、農機も肥料も農薬もいらないのでお金がかかりません。大きな労力もいりません。荒



れ地でもよく、しばらく農薬を使っていない土地があればよいのです。

もし、これが実際に可能ならば、鳩山の農地は生き返るかもしれない。金もかからず、高齢化した農家の方もまた畑に還ってこられる。非農家の方々にも参加してもらえるかもしれない。ニュータウンの方々と農家の方々の交流が生まれるかもしれない。いろいろな可能性のある農法のような気がします。

仲間がいれば、休耕地を貸してくださる地元の方をお願いして、私たちも実際に試験的にやってみようと思います。一緒に協生農法に取り組んでみませんか。（井田 清）

■タケノコ掘りで参加者の歓声の声



4月21日（日）タケノコ掘り体験イベントを開催。当日の天候は、薄曇りで、暑くもなく寒くもなく絶好のイベント日和でした。

会場は上熊井の利根川さんの竹林。去年に続き、2回目のタケノコ掘り体験イベントです。定員20名で募集し、参加者は、大人15名・小人8名の23名で、鳩山町在住の方で会員の友だちや家族や、遠くは東京都杉並区や足立区、さいたま市、茨城県など遠くからの方々でした。「遠くから来られるので、時間がかかったでしょう」との声掛けに、

「いやあ、1時間ちょっとくらいですよ」と東京から来られた方が返事をしていました。それには「えーっ」と驚くばかりで、鳩山町近辺は、あまり時間がかからずに、都会から来られる場所なんだなあと再確認しました。

利根川さんの竹林は、手入れが行き届いたなだらかな斜面で、足元のササの葉が絨毯のようにふかふかしていました。今年のタケノコの育ちはどうだろうと見回すと、かなり大きく伸びているものや、頭をちょこっと出しているものなどがあちこちに見えました。参加者も「わあー」と歓声を上げながら、林の中へ。昼食は、近くの農産物直売所に頼んだおにぎり弁当と田舎饅頭、それに去年も好評だった、朝掘りタケノコがいっぱい入ったみそ汁。みそ汁は昆布をたっぷり使った贅沢な出汁に、朝掘りならではのアクやエグ味のない、香り豊かなタケノコがたくさん入っていて、大鍋にたっぷり。お代わりどうぞ、の大判振る舞いでした（笑）。

無事終了でホッとしていますが、今後の課題として、掘る道具の用意、掘りかたの打ち合わせ、参加費の設定、昼食のメニュー、スタッフの適正人数、などがありました。次の企画は、6月16日アンズジャムづくりです。（嵯峨 千代美）



ニ-ハオ 熊井の森歳時記

スタミナとタフの象徴「車前草」



上熊井集落センターから熊井の森のピザ窯に向かう細い道に、車前草がたくさん生えています。車前草？ 初めて聞いた方もいらっしゃるかもしれません。実は和名オオバコのことです。昔、中国で馬車や牛車がよく通る轍（わだち）の間に生え、いつも車の前方にあるということで「車前草」と命名されたようです。

まだ子どもだった頃、夏休みの間に車前草を採るのは一つのミッションでした。採ってきたものをきれいに洗い、天干して仕上げ、乾燥させた葉っぱをお湯に淹れて「車前草茶」にします。株全体には清熱解毒、消炎利尿、抗菌、明目（目を良くする）などの効果があり、酷暑の季節に農家のお祖母ちゃんに大変重宝にされました。

畑の畦道や道路端にもよく見かけるごく普通の野草ですが、ドクダミと同じく薬食同源の植物でもあり、漢方薬のほか食用にも向いています。車前草は「車轆轤菜」（チャーグルツァエ）とも呼ばれていて、若い芽は柔らかく、実家では野菜としてよく食べていました。

今になって改めて感心させられたのは、車前草の強い生命力です。炎天下の下で、他の草が避けたい悪劣な場所にあえて根を張って、何度も踏みつけられても負けずに生きようとする姿は、まさにスタミナとタフの象徴です。脱帽。（王菲）

<活動雑記>

■あんずジャムづくりチームが主催した「食パンの味比べ」タイム（4月22日）に同席。イベント当日に参加者がつくったジャムを付けて食べるにふさわしい硬さや味を確認するための試食会で、近くのスーパーなどから4種類のパンを買ってきて、自家製ハーブティーを飲みながらみんなで感想を出し合



うというもの。「味はいいけど、ジャムのと相性がイマイチ」とか「手ごろな値段ではこっちね」と女性たち6人の熱のこもったおしゃべりに、ただただ頷くばかり。（愛場）

森の中へ

～自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り③～

「自然を守れ」のスキームはどこに



「見ようとしなければ見えはしないのです～」説教臭いけど、いるかちゃんの歌にあった。

連休になると海や山の自然のなかに出かけたい。その自然を守りたいのに異論などない。

規範としてのSDGsの基本は「開発」を慎重にすべきことがベ

スにある。「自然を守れ」と訴えても、県や自治体にとって、経済が優先されるいは地権者の権利の前で、自然が顧みられることは少ない。森を伐採して発電所を作る事業者の地元説明会では、自然保護の立場から反対を告げる地元住人は本当にわずかしかない。行政の担当職員がその都度立ち会っているが、事業者に反対を言う地元民の少なさを見切って、マイノリティの意見程度の認識にしかみられない。

鳩山は自然が豊かだから、とみんなが異口同音にいう「自然を守れ」のスキームはどんなものなのだろうか。ではあなたにとって、自然とはいかなるものか、問われると、みなそれぞれ答えがある。さらに、自然保護団体メンバーの有りようも、いろいろだ。で、それぞれの守りたい自然とは何なのか。

昨年の「熊井の森通信」に「（熊井の森の）本格的な里山作りがいよいよ始動」とありました。自然保全団体にとって、里山作りとは、里山の生態系保全の調査、学習が最初に検討されるべきテーマでなければ、取り組むべき課題が明確にならないので、昨年からの活動計画に実地の学習が組み込まれました。

ここで生態系の調査、学習って興味が湧かないのであるなら、そのひとの自然とは連休に繰り出すリゾート地のようなものかもしれません。ストレス解消に深い森が人に与えてくれる独特な安らぎも悪くないものですよ。

でも、自然保護団体メンバーとしては、このように自然に接するだけでは、自然を守れません。生態系を守るには、それぞれの生き物がどのような環境に適應しているのかを知ろうとする態度が必要です。生き物の立場で自然を観察する必要があります。<次号に続く> (HK)

熊井の森トラスト基金へ支援金を

★1口5,000円から

<振替口座>

■ゆうちょ銀行

記号番号 00210-4-143207

加入者名 熊井の森トラスト基金

<普通口座>

■ゆうちょ銀行 支店 〇三八

口座番号 9472664

口座名義 クマイノモリトラストキケン

(熊井の森トラスト基金)

★年会費3,000円支援の場合

■ゆうちょ銀行

店名 〇三八 店番 〇38 普通預金

口座番号 96656981

口座名義 けいけいおのりおのり